

ま
さ
の
話
題

繭玉に幸福への願い込めて

薄市小学校で、もちつき会・繭玉づくり

薄市小学校恒例の「餅つき会」が、1月16日(土)に同校の体育館で行われました。

餅つき会には1〜6年生の児童や先生のほか、内潟療護園の入所者3人、薄市保育所年長組の子どもたち11人、児童の母さん約40人も参加し、体育館はにぎやかでした。



まずはみんなで餅つき。お手伝いのお母さんたちが朝から準備していた餅を、臼と杵で豪快につきます。大きな「よいしょ」のかけ声とともに、児童や内潟療護園の入所者も楽しみました。保育所の子どもたちも小さな杵で一生懸命がんばり、「餅つきはおもしろかった。入学が楽しみ」と言っていました。

餅をついたら、その後は着色された餅をミズキの木につけていき、色とりどりの繭玉を飾ります。この繭玉づくりは、昔から小正月(1月15日)近辺に行わ



れてきている伝統行事で、保存食として活用されてきたようです。

繭玉を作り終え、いよいよおまちかねの会食が始まりました。子どもたちは、「自分で作ったのは甘くておいしい。がんばった甲斐があった」繭玉を後で

お互いを認め合う第一歩

家族経営協定合同調印式

12月18日(金)、中央公民館で「家族経営協定合同調印式」が行われました。

今回調印を行ったのは17家族で、例年よりだいぶ多くなっています。このうち、当日は16家族が調印式に臨みました。

式では松館農業委員会会長が、「これからは家族の話し合いが大事になってくる。協定締結はその有効手段で、本格的な農業

(油で)揚げて食べるのも楽しみ」と、やっぱり食べるのが一番楽しそう。
お手伝いに奮闘したお母さんたちからは、「前々日から計量

買い出しなど、いろいろ作業があったが、子どもたちの楽しそうな声が聞いてよかった」と話していました。



経営の普及に役立つものと思います」とあいさつ。

あいさつ後は早速調印式を行い、これからの農業経営に思いを馳せながら、それぞれ家族と一緒に調印しました。

調印した家族を代表し、松坂龍美さんが「家族全員の能力・プライバシーを尊重し、やりがいを持って能力が発揮できるようにしたい。明るい農業の未来に向けて、協定書を尊重し、切磋琢磨する」と抱負を述べていました。

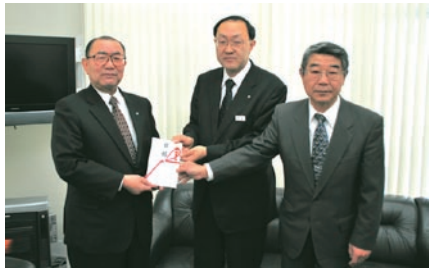
街路灯で町に明るさを
東北電力(株)・(株)ユアテックが
街路灯を寄贈

1月12日(火)、東北電力株式会社と株式会社ユアテックが、町に街路灯を寄贈するため町長室を訪れました。

昭和45年から続くこの活動は、電灯をとおして明るい町づくりに貢献するために行われているもので、今回は大沢内地区の街路灯1基を寄贈していただきました。

東北電力では管内の市町村に寄贈し続けてきており、同社の話では地域住民から大変喜ばれている活動だそうです。

町長は、「このような街灯寄贈のおかげで、町が明るく見違えるようになった。大変ありがたい」と喜んでいました。



新春走り初めで1年健康に

年の初めを駆け抜ける恒例の「元旦マラソン」が、1月1日(祝)に行われました。

あいにくの吹雪模様でしたが、午前9時に号砲が鳴らされると、約40人の参加者が一斉に体育センター前からスタート。ゴールの中里駅前までの約2キロを、それぞれのペースで元気に走りきりました。



1年の“学校活動”を振り返る グリーンツーリズム「かけはしの会」閉校式

12月12日(土)、中央公民館で「畑の学校・食卓の学校」の体験学習と閉校式が行われました。

「かけはしの会」は、町のグリーンツーリズムを推進しようと設立された団体で、食育を兼ねた「畑の学校」「食卓の学校」を今年も数回開催しました。1年間で266人の参加があったそうです。

この日は、「畑の学校」で取れた野菜を実際に調理し、集まった会員が試食と交流を行いました。そのほか学校に参加した感想発表や記念撮影も行われ、試食の料理に舌鼓を打ちながら和やかに交流していました。



12月18日(金)に中央公民館で、今年度2回目の「ふれあいの集い」が開かれました。

この集いは、70歳以上で一人暮らしの高齢者を対象にしたもので、今回はクリスマス間近ということもあり、クリスマスにちなんだ催しを行いました。

午前中は、向町の近村徳明さんを迎えて、水が消える新聞紙や紙がお札に早変わりする「マジックショー」。そのほか、自

「ふれあいの集い」開催

「もったいない町民運動」をすすめるため1月21日(木)、ダンボールコンポストの勉強会が開かれました。

青森市役所柳川庁舎で行われた勉強会では、環境あおりネ

リサイクルの新たな可能性 「ダンボールコンポスト」 青森市で勉強会



みを微生物の力で分解し、ごみを堆肥としてリサイクルする仕組みの1つで、できた堆肥は畑や家庭菜園などに利用できます。また、生ごみの水分はダンボールから自然と蒸発するため、ごみの減量化にも大きく貢献し、結果的にごみ処理費用の軽減にもなります。

「生ごみリサイクル会」代表の白取さんから、実演を交えながらダンボールコンポストの使い方、注意点が紹介され、「とにかく経験が大事。そんなに神経質にならず、まずはやってみて」とアドバイスがありました。参加者からは、驚きの声と様々な質問があり、興味深く話を聞いていました。

続いて青森市役所職員の秋元さんから、同市の行ったダンボールコンポストのモニターに関する取り組みの紹介、最後に生ごみリサイクル会メンバーの成功例、失敗例を聞き、お互いに意見交換しました。この中では、「生ごみを入れない日があつて

新しい年に希望を込めて 新年を祝う集い

新春の門出を祝う恒例の「新年を祝う集い」が、1月4日(月)町総合文化センター「パルナス」で行われ、約130人が参加して寅年の年始を祝いました。

参加者からは、「不景気な話題が多いが、何事にも屈せず、トライしていく年にしたい」といった抱負が聞かれ、新しい年がよい年になるようお互いに談笑しながら、新年を祝っていました。



も、かき混ぜるのだけは続けた方がいい。それで虫が発生しなくなる」など、実践者ならではの話が聞かれ、参加者からも疑問点が質問されるなど実りある勉強会となりました。

参加者は、今後モニターとして

ダンボールコンポストを使ったテストを行い、その意見が今後の取り組みに生かされます。身近にあるもので、安価にできるダンボールコンポスト。興味のある方は、役場環境衛生課までお問合せください。

分で作った紙芝居を読んだりなど、多くの参加者が歓声をあげていました。



また、食生活改善推進委員会の皆さんが、塩分を減らし栄養バランスに優れたおいしい食事を作り、参加者みんなで味わいました。

午後は、地域包括支援センターから介護予防についての話や、クリスマスケーキを食べたりし、最後は2人のサンタクロースが参加者全員へプレゼント。大きな白い袋からプレゼントを渡し、童心に返った様子でした。